

群馬県障害者芸術文化活動支援プログラム

「アートと福祉を繋ぐ会」を実施します

県では、障害者の芸術文化活動の普及を支援するため、NPO法人エイブル・アート・ジャパンと連携し、関係者のネットワークづくりや人材育成などを目的として「障害者芸術文化活動支援プログラム」を展開しています。

このたび、今年度最後の取組として、「アートと福祉を繋ぐ会ー障害のある人のアート活動支援の基礎研修と交流会ー」を実施します。

- 1 日時** 令和5年1月25日（水） 午後1時30分～5時30分
- 2 対象** 障害のある人のアート活動のサポートに関心のある方
- 3 定員** 50名（先着順）
- 4 費用** 無料
- 5 内容・会場**

(1) 講演

演題：私達はなぜアートに取り組むのか

「障害のある人の創造性をささえる豊かな環境づくり」

講師：岡部 太郎（一般財団法人たんぼぼの家（奈良県）常務理事）

会場：県庁2階 ビジターセンター（前橋市大手町1-1-1）

(2) 事例発表

演題：見えない、見えにくい、見える人が一緒に作品鑑賞をすること、見えない人が表現すること

発表者：多胡 宏（版画家・あったらいいなをカタチにアート・アドバイザー）

会場：県庁2階 ビジターセンター

(3) 交流会・作品展示

内容：県内で活動する作家の作品展示や意見交換会

会場：昭和庁舎2階 第1展示室・21会議室

- 6 申込期限** 令和5年1月20日（金）
- 7 申込方法** 右のQRコードからお申し込みください
- 8 問合せ先** 一般社団法人あったらいいなをカタチに（Tel:090-4841-7355）



NPO法人エイブル・アート・ジャパンは、南東北・北関東ブロックの障害者芸術文化活動広域支援センターとして、ブロック内の支援センターや自治体に対する支援などを行っているNPO法人です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第3回 群馬県障害者芸術文化活動支援プログラム

アートと福祉を繋ぐ会



ぐんまアートネットワークが目指す支援センター

1. 目的：アートを通じて、障害のある人が幸せに、夢をもって暮らすことができるようになること
2. そのための2つの目標
 - ①障害のある人主体のアート活動の推進
 - ②ユニバーサル社会の実現に向けた環境整備
3. 今年度のとりくみ
 - ①森のペイントワークショップ 2022. 10. 8～10
 - ②アートサポーター人材育成・ネットワークづくり 2022. 11. 30
 - ③アート支援相談員人材育成・ネットワークづくり 2023. 01. 25

支援センターに求められる役割

- ①関係者のネットワークづくり
- ②相談支援
- ③芸術文化活動を支援する
人材の育成
- ④発表の機会の確保
- ⑤情報収集・発信



障害のある人の表現の向こうにあるもの
アートと福祉を繋ぐ会

障害者芸術文化活動支援センターとは

厚生労働省では、障害のある人たちの芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加の推進を目的に、自治体や民間団体と協力し「障害者芸術文化活動普及支援事業」に取り組んでいます。障害のある人が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるよう、支援拠点として「障害者芸術文化活動支援センター」を都道府県に設置し、絵画や陶芸などの美術分野、演劇や音楽、舞踏などの舞台芸術に関する多様な支援事業を展開しています。

(障害者芸術文化活動普及支援事業ウェブサイトより <https://arts.mhlw.go.jp/>)

NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

「社会の芸術化、芸術の社会化」をキーワードに活動する NPO 法人。2017 年に障害者芸術活動支援センター@宮城(愛称 SOUP)を開設。2021 年から同事業の南東北・北関東広域センターを担当。<https://soup.ableart.org/>

一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

県内の就労支援を行っている障害者施設等により構成される。障害者の工賃向上をめざして『群馬県障害者施設共同受注窓口あったかぐんまのハートネット』を運営している。<https://gunma-kyodo.jp/>

一般社団法人あったらいいなをカタチに

障害のある人も高齢になった人も「自立して望む暮らしができる社会」の実現をめざすサードプレイスとして、『ユニバーサルカフェはーと(誰でも利用できるこども食堂)』『おもちゃの図書館』『アートてらす』『福祉情報発信』などをボランティアで運営している。2021 年開設。

Mail : atp@attaraiina2022.net Insta <https://www.instagram.com/attaraiina.2022>

第3回群馬県障害者芸術文化活動支援プログラム

アートと福祉を繋ぐ会

—障害のある人のアート活動支援の基礎研修と交流会—

障害のある人は、様々な可能性を持った「人」。多様性あふれる彼らとの仕事をつくる「Good Job!センター香芝」。その立ち上げに深くかかわった岡部太郎さん（「一般財団法人たんぼぼの家」常務理事、前橋市出身）にお話を伺います。

日時：2023年1月25日（水） 13:30~17:30

場所：群馬県庁2階 ビジターセンター（講演と質疑応答、事例発表）
群馬県庁昭和庁舎2階 第1展示室・21会議室（作品展示・交流会）
<https://www.pref.gunma.jp/>

対象：障害のある人のアート活動をサポートしたい人・活動している人
芸術文化活動実践者（アーティスト、大学・専門学校生、アートサポーター、支援者）
専門家（弁護士、司法書士、デザイナー、制作工房、企業、など）
障害児者・高齢者・保育・教育の支援・相談支援スタッフ、その他興味のある人

定員：50名

参加費：無料

申込はこちらからお願いします。

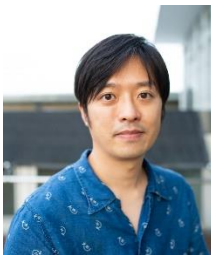


たんぼぼの家アートセンターHANA



講演 私達はなぜアートに取り組むのか 「障害のある人の創造性をささえる豊かな環境づくり」

ケアとアートの原点は似ていると思います。人と人とが豊かに関わり合う場をどうつくれるか。敷居が高いとされているアートの世界も、見方や考え方を变えることで日常のなかで共有していくことができます。私たちがなぜアートに取り組むのか。参加されるみなさんといっしょに考えたいと思います。



講師 一般財団法人たんぼぼの家 常務理事 岡部 太郎 氏

1979年、群馬県前橋市生まれ。たんぼぼの家アートセンターHANAを拠点に、あたらしいアートの可能性を探る「エイブル・アート・ムーブメント」や、仕事や働き方を模索する「Good Job!プロジェクト」の推進をしている。ニュートラプロジェクトは立ち上げから運営スタッフとして参加。また、障害者の芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省）では近畿ブロック支援センターとして、障害とアートにまつわる諸事業に取り組むなど、障害のある人と異分野をつなげる役割を担っている。

事例発表

「見えない、見えにくい、見える人が一緒に作品鑑賞をすること、見えない人が表現すること」

発表者 多胡 宏 氏

版画家・あったらいいなをカタチにアートアドバイザー

1957年群馬県生まれ。群馬県内の小学校、特別支援学校に勤務。盲学校在職時にTOM賞入賞。94年『このころのかたち』（群馬県の視覚障害をもつ子供たちの作品集を出す会）出版。第14回ぐんま教育賞「杉の子賞（教職員の部）」優秀賞。盲学校長退職後、群馬大学大学院教育学にて盲学校美術科教育を研究。21年『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』（ジアース教育新社）編集執筆協力。事業所等でアート活動のアドバイスや支援を行う。

交流会 活動紹介と意見交換会

群馬県内の事業所などでアート活動に取り組んでいる作家の作品を展示し、取り組みの様子などを紹介、意見交換をします。

障害のある人のアートを支援している人とこれから参加したい人の縁のスタートです。来年のセンター開始に向けて、アートネットワークが広がることを願っています。

作品展 同時開催!

展示を希望する作家・事業所を募集します。申し込みは上記QRコードから。詳細は折り返しメールでご連絡させていただきます。【締め切り1月10日（火）】※お願い：新型コロナウイルス感染防止対策として、マスク着用、手指消毒、検温にご協力ください。

主催：南東北・北関東広域支援センター（NPO法人エイブル・アート・ジャパン）・一般社団法人あったらいいなをカタチに

共催：群馬県社会就労センター協議会 後援：群馬県

【問い合わせ】 一般社団法人あったらいいなをカタチに

〒371-0244 群馬県前橋市鼻毛石町1991-49 TEL：090-4841-7355

Mail：atp@attaraiina2022.net Insta <https://www.instagram.com/attaraiina.2022>